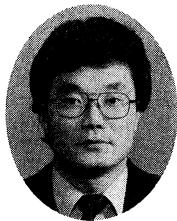


ではあつたが、確かに変わつてゐることが感じられた。口を開くまでは、一年近くかかった。

あれから三年。A子は今中学校で友だちと元気に遊び、部の活動にがんばつていて。時には、私のところにも寄つて、友だちのこと、学校のことなどを話していく。

今、私は、休み時間や昼食時など、子どもとのふれ合いの時間を大切にし、また、楽しみにしている。特に、目立たない子どもに目を向け、その心の中を理解し、その子どもに応じたはたらきかけをどうしたらよいか、心の扉を開けるカギは何かを模索している毎日である。

(富岡町立富岡第一小学校教諭)



山田 明

健康マラソン

ここ五、六年、住民の健康や体力の楽しさを知つたのは、健康マラソン大会に参加してからである。健康マラソンは、年代別に、自分の走力に応じて、そんな私でも、大会というものに参加し、多くの仲間と一緒に走ることの楽しさを感じた。

走ること、それはきらいなほうではなかつたが、学生時代に選手に選ばれたことなどなかつた。

走るのには苦しいが、走れないのは

ルくらい走りたいと思っているのだが、なかなか思うように走れない。仕事が忙しい時には、一週間ぐらいい休んでしまう。もともと素質があるわけでもないし、そんな練習法だから、大会での上位入賞は期待できない。参加することに意義があるんだと自分を納得させ、大会に参加している。

今、健康・体力の保持増進と、なによりも仕事における気分転換のために毎日、夕方走ることにしている。

「走るのは苦しいが、走れないのは

五キロメートル、十キロメートルの距離を走るのである。

参加者は、できれば優勝したいと思ひ、地域の活性化を図ろうとする考え方からか県内各地でマラソン大会が数多く開催されるようになつてきた。

ここ会津でも、六月だけで桐の里リレーマラソン大会(三島町)、奥川マラソン大会(西会津町)、あやめマラソン大会(会津高田町)が開催される。ジョガーハンはうれしい限りである。

私は、ジョギングブームに乗り遅れまいと始めたわけでもないし、大会に出で優勝をねらおうとして始めたわけでもないが、走り始めて五年になる。走るといつても、多忙な仕事の合間に走るわけだから、毎日十キロメートルくらい走りたいと思っているのだが、なかなか思うように走れない。

仕事が忙しい時には、一週間ぐらいい休んでしまう。もともと素質があるわけでもないし、そんな練習法だから、大会での上位入賞は期待できない。参加することに意義があるんだと自分を納得させ、大会に参加している。

走りながら、いろいろな話をしたり、走る時のフォーム、呼吸法などについてアドバイスをしたりできることは、ふれあいの面でも効果がある。

いか、一緒に走った子どもたちの中から、小学校や中学校の大会で、優勝してくれる子どもが出てくることを期待しながら。

もっと苦しい」ということばを実感として受け止めながら。

(喜多方市立熊倉小学校教頭)

赤とんぼ

斎藤 健



「夕焼けこやけの赤とんぼ、おわれてみたのはいつの日か」愛唱歌として親しまれ、いく度となく口ずさんだ歌であるが、「おわれて」が「負われて」であるとわかつたのは大人になつてからである。それまでは、歌うたびに子どもが赤とんぼを追いかけている情景を思い描いていたようと思う。大人になつてから、こうした思い違いの訂正をしたり、新しい発見をしたりしたことなどが数あるような気がする。

（喜多方市立熊倉小学校教頭）